

奨励品種水稻うるち「西海193号」について

農業研究センター 農産園芸研究所 作物部

研究のねらい

本県では、稲の地帯区分別に適地適品種を基本に、作付が積極的に進められており、山麓準平坦及び球磨地域では「ヒノヒカリ」「レイホウ」「ミナミニシキ」が作付されている。

しかし、「レイホウ」「ミナミニシキ」は品質、食味の面でやや難があることから良食味品種で、しかも機械、施設の効率的利用の面から、同熟期群の品種の出現が望まれていた。

このため、「ヒノヒカリ」と組み合わせが可能な山麓準平坦及び球磨地域に適した良質・良食味の晩生品種の選定を行った。

研究の成果

1. 来歴

コシヒカリ並の極良食味品種を育成目的として〔(ミズホ/コシヒカリ)F₂/コシヒカリ〕のF₂を母、「シンレイ」を父とした人工交配品種である。

2. 品種特性

- (1) 成熟期は「ヒノヒカリ」より7～8日、「レイホウ」より2～3日程度遅い晩生の早種である。
- (2) 稈長は「レイホウ」「ヒノヒカリ」より6～7cm短く、穂数は「レイホウ」と同程度かやや少ない短稈・偏穂数型である。
- (3) 収量性は「レイホウ」と同程度か、わずかに低く、中位である。
- (4) 玄米はやや小粒で、腹白がわずかに認められるが、品質は「レイホウ」並に良好である。食味も良好である。
- (5) いもち病にはやや弱く、白葉枯病には中位である。

3. 普及地域 山麓準平坦及び球磨地域

普及上の留意点

- (1) いもち病にはやや弱いので、適期防除に努める。
- (2) やや小粒であり、登熟形質の向上が収量・品質確保のポイントとなるので、適期穂肥による適正粒数の確保と、間断かん水の励行、落水期の延長等の水管理に留意する。
- (3) 移植時期の早晩により出穂・成熟期が変動することがあるので、極端な早植えを避け、地域の一般的な移植時期が望ましい。

表1 生育特性

系統名 又は 品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	穂いも ち病
西海193号	9.2	10.17	76	18.6	381	0.2	0.4
レイホウ	9.2	10.15	83	18.9	406	0.3	0.4
ミナミニシキ	9.5	10.21	78	19.7	405	0.0	0.4
ヒノヒカリ	8.27	10.10	84	20.3	396	0.8	0.5

注) 平成元年～平成4年の4ヶ年平均値

表2 収量及び品質

系統名 又は 品種名	玄米重 (kg/a)					玄米 千粒 重	品質	検査等級			
	H1	H2	H3	H4	平均			H1	H2	H3	H4
西海193号	47.8	57.1	49.4	55.4	52.4	21.0	5.2	2.上	1~2	2.上	1.下
レイホウ	47.7	59.0	48.5	59.0	53.6	22.6	4.9	2.下	2	2.中	1.下
ミナミニシキ	53.9	59.5	49.8	59.4	55.7	23.5	5.4	1.下	1~2	規外	1.中
ヒノヒカリ	54.2	60.7	54.4	57.2	56.6	21.6	5.0	2.下	2	2.中	1.下

表3 食味検定結果

系統名 又は 品種名	食味検定項目						総合評価 における 有意差
	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合評価	
西海193号	+0.375	+0.458	-0.042	-0.167	+0.083	+0.042	0
ミナミニシキ	+0.167	-0.583	+0.042	-0.083	+0.708	-0.083	0
ヒノヒカリ	+1.042	+0.667	+0.958	+0.500	-0.958	+0.583	+

注) 農産園芸研究所による(基準米: 農産園芸研究所産レイホウ)